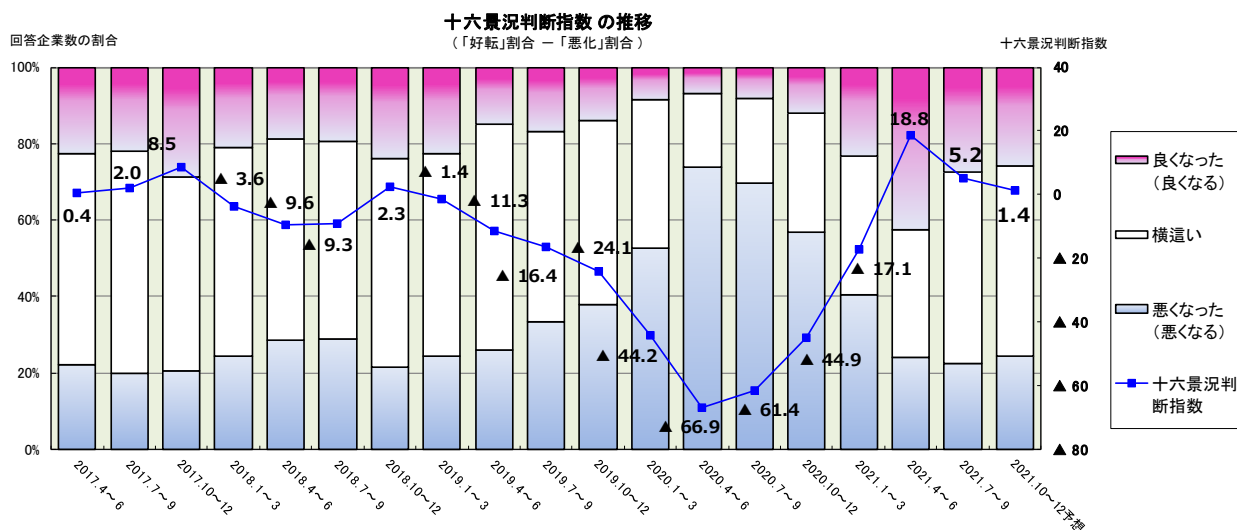


# 第 196 回 東海地区企業動向調査

(2021 年 7~9 月期 十六景況判断指数 調査報告)

- ①十六景況判断指数は5期ぶりに低下したが、製造業が下支えし、プラスを維持。来期も低下するが、プラスにとどまる見込み。
- ②原材料等の高騰を受け、仕入価格BSIは5期連続で上昇した。
- ③経営上の最大の問題点は「売上げの停滞・減少」(34.2%)が2019年4~6月期以降、10期連続の1位。製造業では「仕入商品・原材料高」が上昇し28.7%と2位で、1位の「売上げの停滞・減少」(32.2%)に迫る。



四半期	2017.4~6	2017.7~9	2017.10~12	2018.1~3	2018.4~6	2018.7~9	2018.10~12	2019.1~3	2019.4~6	2019.7~9	2019.10~12	2020.1~3	2020.4~6	2020.7~9	2020.10~12	2021.1~3	2021.4~6	2021.7~9	2021.10~12予想
良くなった	22.5	22.0	28.9	20.9	18.8	19.5	23.9	22.8	14.8	16.8	13.9	8.4	6.8	8.3	12.0	23.4	42.7	27.6	25.8
横這い	55.4	58.0	50.7	54.6	52.8	51.7	54.5	53.0	59.1	50.0	48.1	39.0	19.5	22.0	31.1	36.1	33.4	50.0	49.8
悪くなった	22.1	20.0	20.4	24.5	28.4	28.8	21.6	24.2	26.1	33.2	38.0	52.6	73.7	69.7	56.9	40.5	23.9	22.4	24.4
十六景況判断指数	0.4	2.0	8.5	▲3.6	▲9.6	▲9.3	2.3	▲1.4	▲11.3	▲16.4	▲24.1	▲44.2	▲66.9	▲61.4	▲44.9	▲17.1	▲18.8	▲5.2	▲1.4

## 調査要領

1. 調査方法 岐阜県、愛知県の企業に対し、Webと郵送を併用しアンケートを実施
2. 調査時期 2021年 9月1日~15日
3. 調査期間 2021年 7月 ~ 9月期 実績 (見込み)  
2021年 10月 ~ 12月期 予想
4. 回答状況 有効回答数 211社 (岐阜県、愛知県の企業 600社、有効回答率 35.2%)
5. 本調査の経緯 第1回調査 1966年1月(半期ごと)、1980年6月より四半期ごと

## 1. 概要

今期（2021年7～9月期）の十六景況判断指数は5.2（前期比13.6 ㊦減）と、昨年4～6月期以来、5期ぶりに低下した。業種別にみると、製造業は16.3（同8.5 ㊦減）、非製造業は▲8.5（同20.4 ㊦減）と、非製造業が大きく低下したが、製造業が下支えしプラスを維持した。

来期の十六景況判断指数は1.4（今期比3.8 ㊦減）と引き続き低下するが、プラスにとどまる見込みである。製造業は12.1（同4.2 ㊦減）、非製造業は▲11.7（同3.2 ㊦減）と、いずれも低下幅は縮小する見込みである。

売上げBSI、受注BSI、操業率BSI、売上高純利益率BSIは低下、在庫BSIは横ばいで推移した。

売上げBSIは12.3（前期比10.6 ㊦減）、受注BSIは24.1（同10.0 ㊦減）、操業率BSIは13.8（同14.5 ㊦減）、売上高純利益率BSIは▲2.4（同10.7 ㊦減）と、いずれも低下し、在庫BSIは2.5（同±0 ㊦）と横ばいで推移した。

来期の売上げBSIは11.3（同1.0 ㊦減）、受注BSIは19.1（同5.0 ㊦減）、売上高純利益率BSIは▲3.3（同0.9 ㊦減）と引き続き低下し、操業率BSIは14.7（同0.9 ㊦増）、在庫BSIは3.9（同1.4 ㊦増）と、上昇する見込みである。

売上高純利益率BSIの低下要因をみると、「売上げ減少」が62.9%と引き続き1位であった。他の要因としては「原材料・仕入商品高」が、前々期8.3%、前期22.4%、今期27.4%と影響が期を追うごとに大きくなっており、来期は36.5%とさらに上昇する見込みである。

### \* 十六景況判断指数

岐阜県、愛知県内の企業、600社を対象に、自社の業況について、前年同期と比べて「よくなった/よくなる」と回答した割合から「悪くなった/悪くなる」と回答した割合を差し引いて求めた指標

### \* BSI (Business Survey Index)

各項目につき、前年同期と比べて好転（増加・上昇・容易・過大）と回答した割合から、悪化（減少・低下・困難・不足）と回答した割合を差し引いて求めた指標

仕入価格BSI、販売価格BSIは上昇した。

仕入価格BSIは50.9（前期比11.1 ㊦増）、販売価格BSIは10.5（同6.3 ㊦増）と、いずれも上昇した。

来期の仕入価格BSIは46.7（今期比4.2 ㊦減）と低下し、上昇基調に一服感がみられるが、販売価格BSIは13.4（同2.9 ㊦増）と、引き続き上昇する見込みである。

設備投資実施企業の割合はほぼ横ばいで推移した。

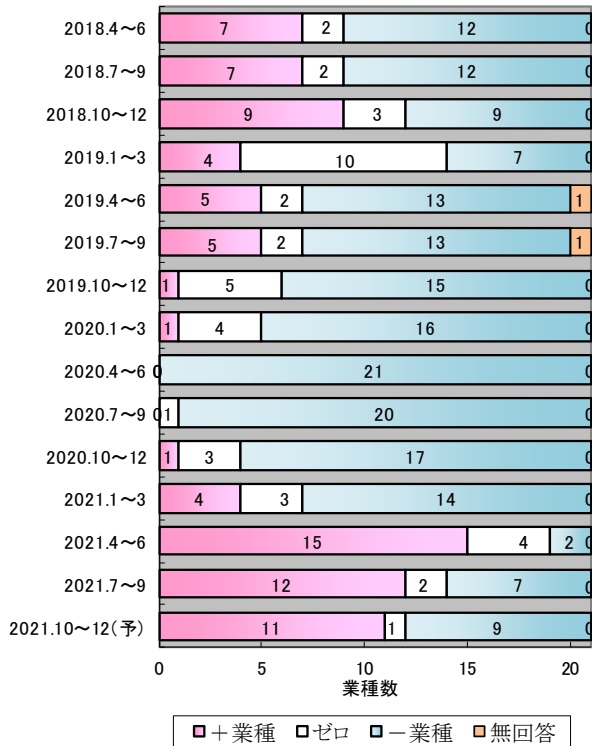
設備投資を実施した企業の割合は36.2%（前期比0.1 ㊦増）と、ほぼ横ばいで推移した。1企業当たりの平均投資額は66百万円と、前期より20百万円減少した。設備投資の主な目的は引き続き「既存設備の補修・更新」が1位で58.3%（前期比2.9 ㊦増）だった。

来期、設備投資を予定する企業の割合は35.7%（今期比0.5 ㊦減）と、引き続きほぼ横ばいで推移する見込みである。

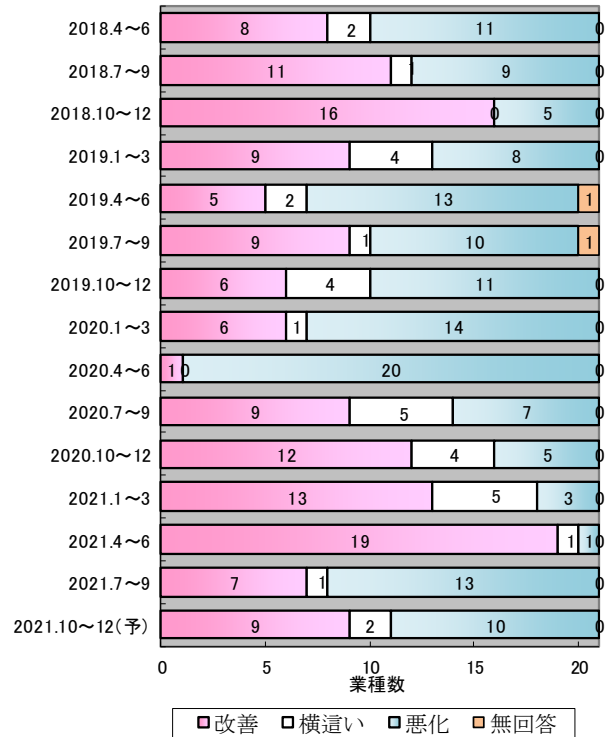
雇用人員の変化BSIは正社員、パート・臨時雇用者ともに低下し、雇用人員の過不足感BSIも低下した。

雇用人員の変化BSI（増加－減少）は正社員が6.6（前期比0.8 ㊦減）、パート・臨時雇用者が▲8.2（同3.0 ㊦減）といずれも低下した。また、雇用人員の過不足感BSI（過剰－不足）も▲18.1（同6.2 ㊦減）と、人手不足感が強まっている。業種別にみると、製造業は▲9.5（同11.2 ㊦減）、非製造業は▲28.4（同0.7 ㊦減）と、製造業の人手不足感が強まっている。

個別業種の景況判断指数



個別業種の景況判断指数の変化(前期との比較)



業種別天気図

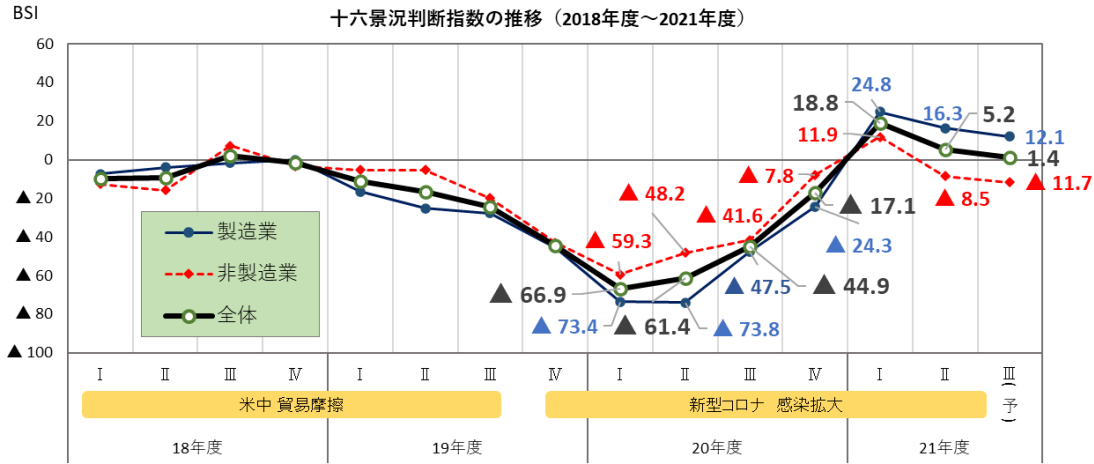
	2021年 4~6 月期実績	2021年 7~9 月期実績	2021年 10~ 12月期予想
全業種	∞	∞	∞
製造業	∞	∞	∞
食料品	∞	☀️	∞
繊維工業	∞	☁️	☁️
衣服・その他繊維製品	☔️	∞	☀️
木材・木製品	∞	☁️	∞
家具・装備品	☀️	☔️	☀️
紙・紙加工品	☀️	☀️	∞
出版・印刷	☀️	☁️	☔️
化学工業	☀️	∞	☁️
窯業・土石製品	∞	☀️	☁️
鉄鋼・非鉄金属	☀️	∞	∞
刃物・金属製品	☀️	☀️	∞
一般機械器具	∞	☀️	☀️
電気機械器具	☀️	∞	☁️
輸送用機械器具	☀️	∞	☀️
プラスチック・その他製造業	∞	∞	☀️

	2021年 4~6 月期実績	2021年 7~9 月期実績	2021年 10~ 12月期予想
非製造業	∞	☁️	☁️
鉱業	☔️	☔️	☔️
建設業	∞	☔️	☔️
卸売業	∞	∞	☁️
小売業	☀️	☁️	☁️
運輸業	☀️	∞	☀️
サービス業	☀️	∞	∞

記号	天気	景況判断指数
☀️	晴れ	50以上~100
☀️	晴れ時々くもり	25以上~50未満
∞	薄くもり	0以上~25未満
☁️	くもり	0未満~△25まで
☔️	くもり時々雨	△25超~△50まで
☔️	雨	△50超~△100まで
-	対象業種のデータなし	

## 2. 今期実績と来期予想

### (1) 十六景況判断指数



今期の十六景況判断指数は5.2(前期比13.6ポイント減)と、昨年4～6月期以来、5期ぶりに低下した。業種別にみると、製造業は16.3(同8.5ポイント減)、非製造業は▲8.5(同20.4ポイント減)と、非製造業が大きく低下したが、製造業が下支えしプラスを維持した。

前年同期は「GoToキャンペーン」の恩恵を受け、一部の非製造業で景況感が一時的に回復していた。今年も県内での宿泊応援キャンペーンなどが開催されたが、期間が短く、効果は限定的となった。さらに、新型コロナのデルタ株が猛威をふるい、急激に感染者数が増加した「第5波」により、当地域にお

いても「まん延防止等重点措置」や「緊急事態措置」が実施されたことを受け、小売業、建設業、サービス業などを中心に景況感は大きく低下した。

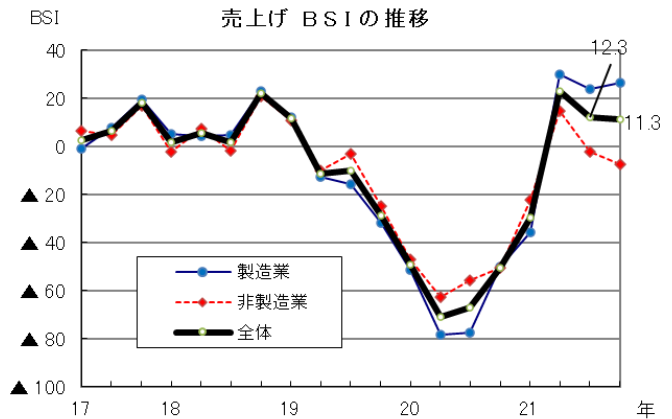
また、家具・装備品、出版・印刷、化学工業などの製造業でも景況感が悪化しており、ウッドショックや半導体不足など供給不安が影響しているとみられる。

来期の十六景況判断指数は1.4(今期比3.8ポイント減)と引き続き低下するが、プラスにとどまり、製造業は12.1(同4.2ポイント減)、非製造業は▲11.7(同3.2ポイント減)と、いずれも低下幅は縮小する見込みである。

### (2) 売上げ

今期の売上げBSIは、製造業が24.1(前期比5.9ポイント減)、非製造業が▲2.1(同17.0ポイント減)、全体で12.3(同10.6ポイント減)と、いずれも低下した。

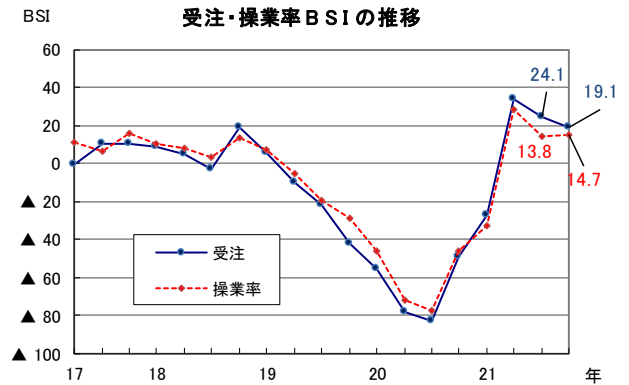
来期は、製造業が26.7(今期比2.6ポイント増)、非製造業が▲7.4(同5.3ポイント減)となり、全体で11.3(同1.0ポイント減)と、非製造業を中心に引き続き低下する見込みである。



### (3) 受注・操業率 (対象は製造業と鉱業)

今期の受注 BSI は 24.1 (前期比 10.0 増減)、操業率 BSI は 13.8 (同 14.5 増減) と、いずれも低下した。

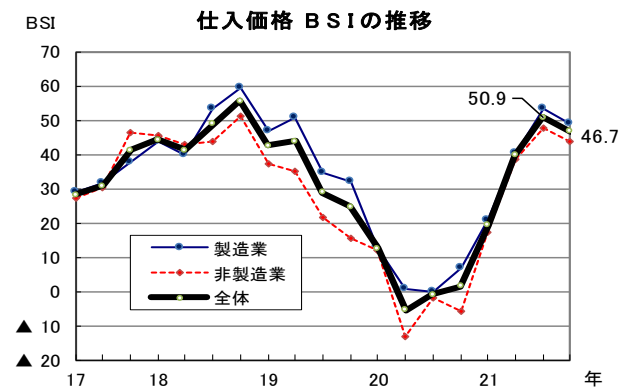
来期の受注 BSI は 19.1 (今期比 5.0 増減) と低下が続き、操業率 BSI は 14.7 (同 0.9 増減) と、やや上昇する見込みである。



### (4) 仕入価格

今期の仕入価格 BSI は、製造業が 53.4 (前期比 12.9 増減)、非製造業が 47.8 (同 9.1 増減)、全体で 50.9 (同 11.1 増減) と、いずれも上昇した。

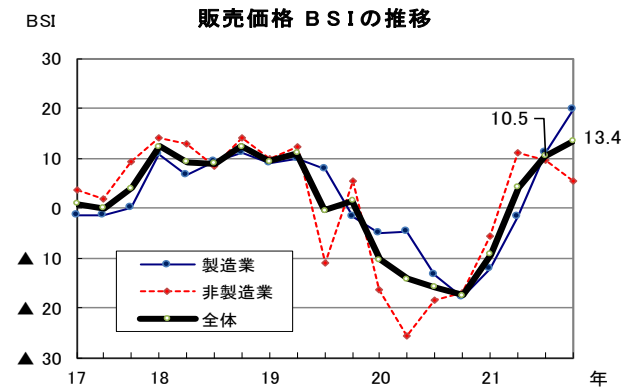
来期は、製造業が 49.1 (今期比 4.3 増減)、非製造業が 43.6 (同 4.2 増減)、全体で 46.7 (同 4.2 増減) と、仕入価格の上昇基調が一服する見込みである。



### (5) 販売価格

今期の販売価格 BSI は、製造業が 11.2 (前期比 12.9 増減)、非製造業が 9.6 (同 1.5 増減)、と製造業が上昇し、全体で 10.5 (同 6.3 増減) となった。

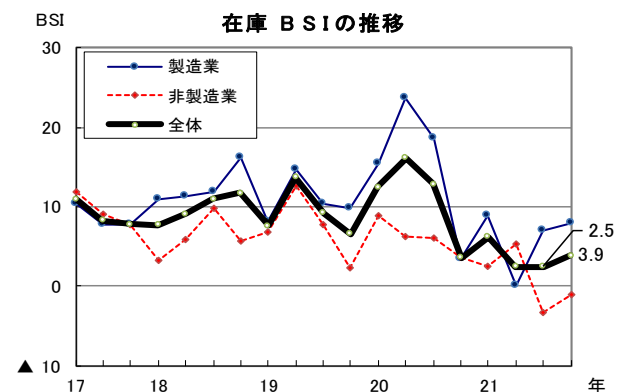
来期も、製造業が 19.8 (今期比 8.6 増減)、非製造業が 5.3 (同 4.3 増減)、全体で 13.4 (同 2.9 増減) と、引き続き製造業が上昇、非製造業が低下する見込みである。



### (6) 在庫

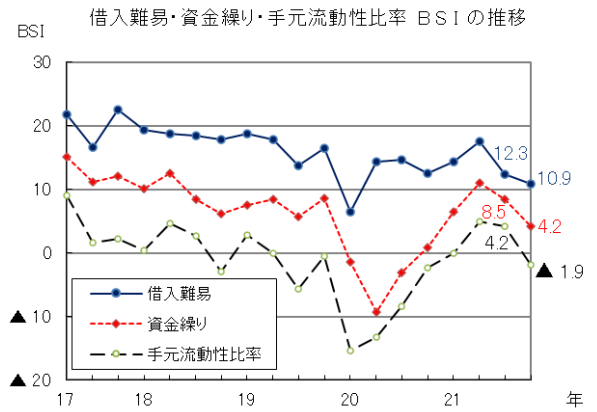
今期の在庫 BSI は、製造業が 7.0 (前期比 7.0 増減) と上昇、非製造業が▲3.3 (同 8.7 増減) と低下し、全体で 2.5 (同±0 増減) と横ばいで推移した。

来期は、製造業が 7.9 (今期比 0.9 増減)、非製造業が▲1.1 (同 2.2 増減)、全体で 3.9 (同 1.4 増減) と、やや上昇する見込みである。



### (7) 借入難易・資金繰り・手元流動性比率

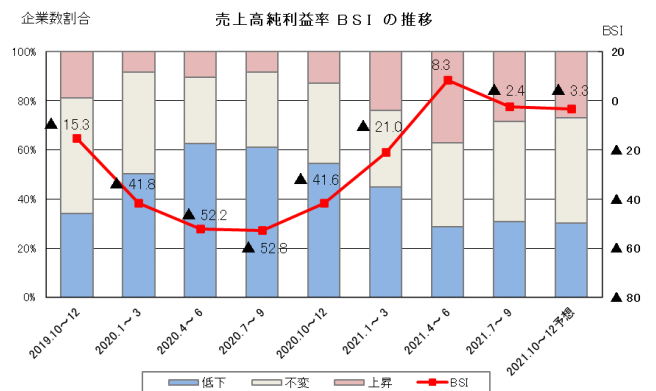
今期の借入難易 BSI (容易-困難) は 12.3 (前期比 5.2 増減)、手元流動性比率 BSI (上昇-低下) は 4.2 (同 0.8 増減)、資金繰り BSI (楽-苦しい) は 8.5 (同 2.5 増減) と、いずれも低下した。来期も引き続き、いずれも低下する見込みである。



### (8) 売上高純利益率

今期の売上高純利益率 BSI は▲2.4 (前期比 10.7 増減) と、4 期ぶりに低下した。来期の売上高純利益率 BSI は▲3.3 (今期比 0.9 増減) と引き続き低下する見込みである。

売上高純利益率の低下要因をみると、「売上げ減少」が 62.9% と引き続き 1 位であった。他の要因としては「原材料・仕入商品高」が、前々期 8.3%、前期 22.4%、今期 27.4% と影響が期を追うごとに大きくなっており、来期は 36.5% とさらに上昇する見込みである。

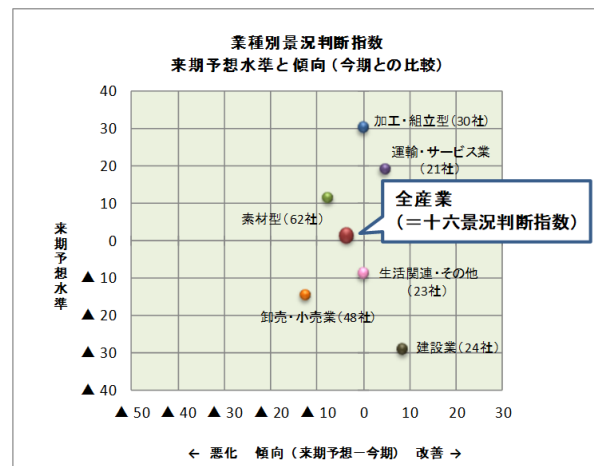
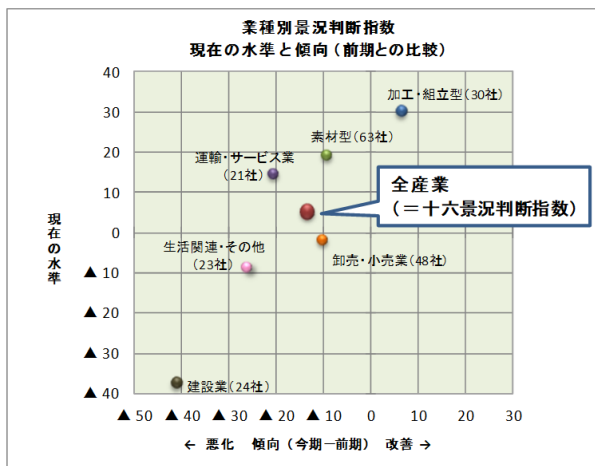


## 3. 業種別の動向

調査対象から鉱業を除いた 20 業種を 6 グループに分け、景況判断指数の水準と傾向を示した。今期の BSI は加工・組立型のみ前期比改善し、その他の業種グループでは悪化した。特に建設業は前期比

41.2 増減と大幅に低下した。

来期は建設業、運輸・サービス業のみ前期比改善する見込みである。



注)【製造業の分類】

**素材型**：木材・木製品、紙・紙加工品、化学工業、窯業・土石製品、鉄鋼・非鉄金属、刃物・金属製品、プラスチック・その他製造業

**加工・組立型**：一般機械器具、電気機械器具、輸送用機械器具

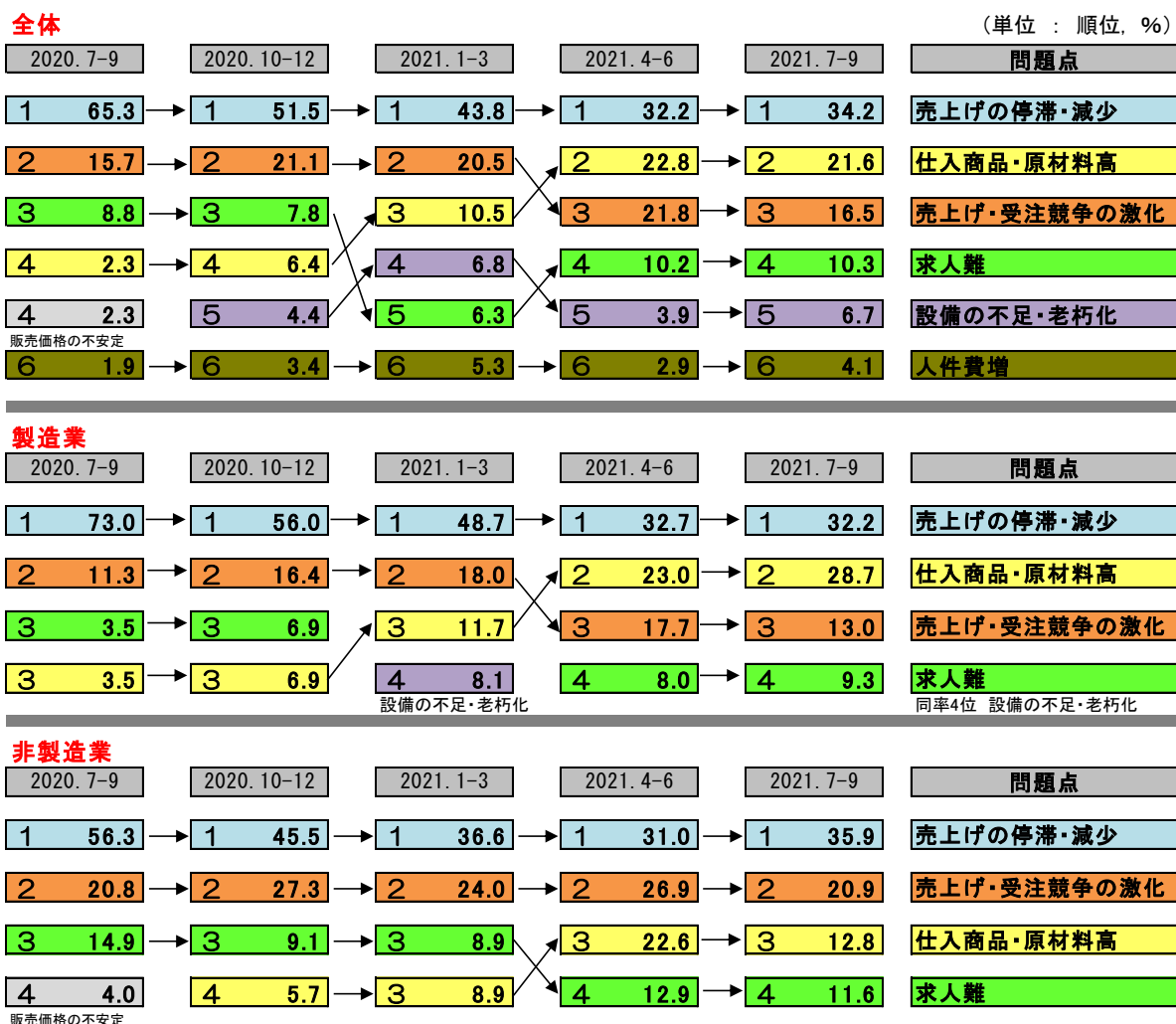
**生活関連・その他**：食料品、繊維工業、衣類その他繊維製品、家具・装備品、出版・印刷

「鉱業」は回答企業数が少数であったため、分析の対象外とした。



## 4. 当面する経営上の最大の課題点

当面する経営上の最大の課題点（単一回答）順位の推移



当面する経営上の課題点について上位3つまで尋ねたところ、最大の課題点として回答された項目は「売上げの停滞・減少」(34.2%)で、2019年4~6月期以降、10期連続の1位となった。製造業では2位の「仕入商品・原材料高」(28.7%)が上昇基調にあり、1位に迫りつつある。

上位3つに選択された項目をみると、製造業では「仕入商品・原材料高」は50.0%の企業が選択し、非製造業でも37.2%が選択しており、木材、鋼材といった原材料等の高騰が多くの企業で問題となっている。

自由記入欄には「コロナ第5波により百貨店の人数制限や旅行をする人が減り、服が売れなくなり受

注が減っている。(繊維工業)、「コロナウイルスの影響から、価格面のみならず供給面の不安定が非常に逼迫している。(化学工業)」、「資材の高騰により、原価の上昇が予想されるが、価格転嫁は難しく、仕入先の見直しや社内で吸収すべく生産体制の改善が必要。(紙・紙加工品)」など、新型コロナの影響による需要の減少や、原材料の調達難、価格高騰に関する懸念の声が多数あがった。

その他、「海上輸送が遅れて納品に影響がでている。ここ1年間スケジュール通り入港してこない。(卸売業)」、「東南アジアでのコロナ感染拡大による影響が下期にできそう。(卸売業)」といった海外からの仕入れ関連の問題が複数寄せられた。

## 5. 設備投資

今期、設備投資を実施した企業の割合は、製造業が40.9%（前期比0.4 ㊦増）、非製造業が30.5%（同0.5 ㊦減）、全体で36.2%（同0.1 ㊦増）と、ほぼ横ばいで推移した。1企業当たりの平均投資額は66百万円と、前期より20百万円減少した。

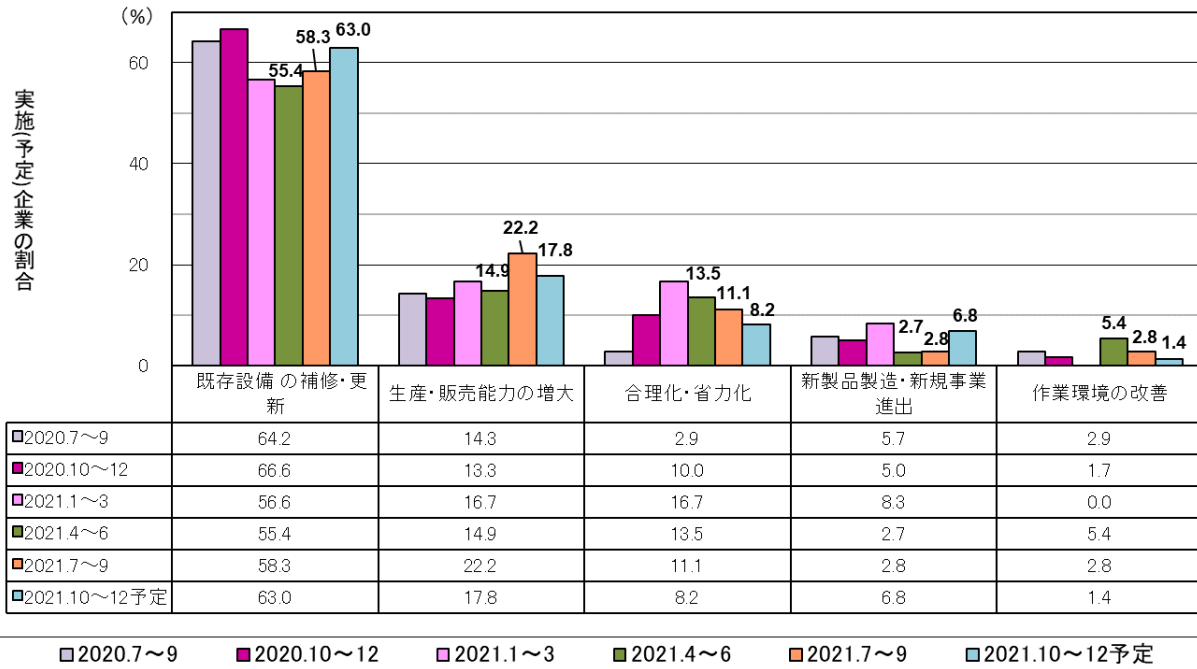
来期、設備投資を予定する企業の割合は、製造業が41.4%（今期比0.5 ㊦増）とほぼ横ばいで推移、非製造業が28.7%（同1.8 ㊦減）と低下し、全体で35.7%（同0.5 ㊦減）と、引き続きほぼ横ばいで推移する見込みである。

設備投資実施状況

（単位：％，百万円）

	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	実施企業割合	投資総額	1企業当たり平均投資額	実施企業割合	投資総額	1企業当たり平均投資額	実施企業割合	投資総額	1企業当たり平均投資額
2019 4～6 実績	34.8%	8,235	135	41.3%	5,873	147	27.2%	2,362	112
2019 7～9 実績	37.6%	7,104	103	49.1%	5,033	103	23.4%	2,071	104
2019 10～12 実績	43.5%	7,791	99	50.9%	4,311	85	34.7%	3,480	124
2020 1～3 実績	35.8%	6,346	93	46.2%	5,015	109	23.5%	1,331	60
2020 4～6 実績	35.9%	5,262	68	43.8%	3,583	72	26.6%	1,679	62
2020 7～9 実績	31.7%	6,145	92	37.3%	3,447	86	25.7%	2,698	100
2020 10～12 実績	32.2%	6,661	121	37.8%	5,294	147	24.7%	1,368	72
2021 1～3 実績	30.5%	6,619	116	41.2%	4,864	113	16.9%	1,755	125
2021 4～6 実績	36.1%	6,298	86	40.5%	2,796	64	31.0%	3,501	121
2021 7～9 実績	36.2%	7,827	66	40.9%	6,802	102	30.5%	1,025	20
2021 10～12 予定	35.7%	8,039	69	41.4%	6,246	95	28.7%	1,794	36

設備投資の主な目的

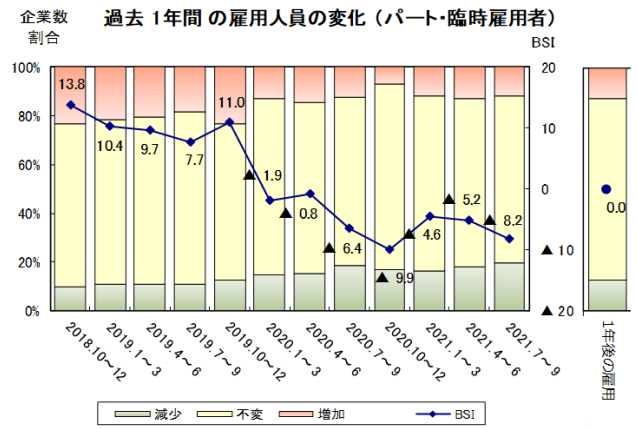
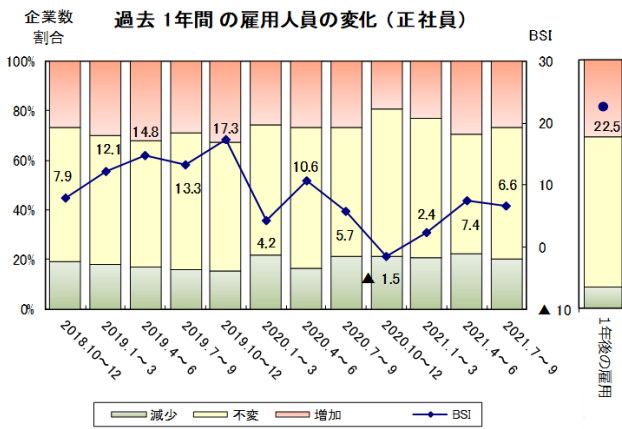


今期の設備投資の主な目的は、引き続き1位が「既存設備の補修・更新」で58.3%（前期比2.9 ㊦増）、2位が「生産・販売能力の増大」で22.2%（同7.3 ㊦増）、3位が「合理化・省力化」で11.1%（同2.4 ㊦減）だった。

来期は、1位の「既存設備の補修・更新」が63.0%（今期比4.7 ㊦増）とさらに上昇し、2位の「生産・販売能力の増大」が17.8%（同4.4 ㊦減）と低下、3位の「合理化・省力化」が8.2%（同2.9 ㊦減）と、前向きな投資がやや低下する見込みである。



## 6. 雇用



過去1年間の雇用人員の変化 BSI（増加－減少）は、正社員ではやや低下し 6.6（前期比 0.8 点減）だった。パート・臨時雇用者の雇用人員の変化 BSI は、▲8.2（同 3.0 点減）と 2 期連続で低下した。依然として正社員のプラス基調での推移、パート・臨時雇用者のマイナス基調での推移が続いている。1年後の雇用人員の変化 BSI は、正社員では 22.5、パート・臨時雇用者では ±0 と、正社員の雇用人員に対して「増加」もしくは「不変」を見込む企業が多い。

雇用人員の過不足感 BSI（過剰－不足）は▲18.1（同 6.2 点減）と、人手不足感が強まっている。業種別にみると、製造業が▲9.5（同 11.2 点減）、非製造業が▲28.4（同 0.7 点減）と、製造業が大きく低下した。人手不足感が続いている非製造業に加え、需要が回復しつつある製造業でも人手不足感が強まっているとみられる。

（研究員 藤木 由江）

